

八雲の家

House in Yakumo
東京都目黒区

矢板建築設計研究所
Yaita and Associates



配置図 縮尺 1 : 1,500

上：西側外観。

左：北側外観。道路から階段を上がってアプローチし、地上レベルから玄関を浮かせることで、傾斜地のレベル差をうまく利用している。

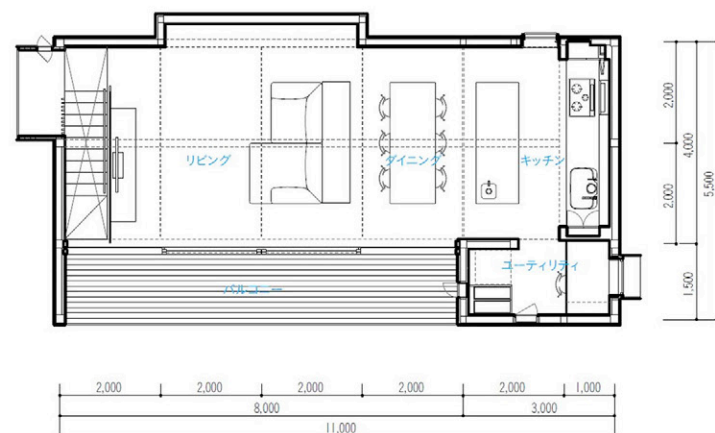


北面の近景。玄関や窓回りは2.3mm厚の
St PL 溶融亜鉛メッキ仕上げ。*

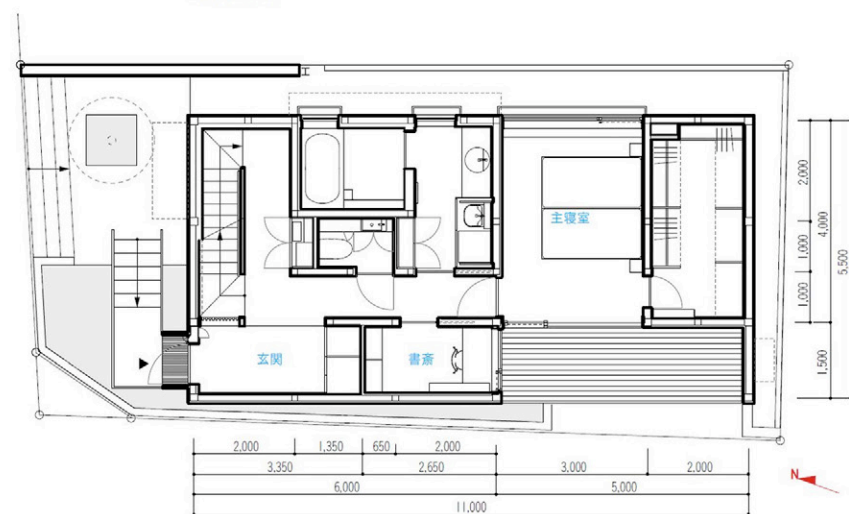
2階のリビング・ダイニング・キッチン。家型の頂部にトップライトを設けて、日中の光を西側の開口部と併せて取り入れる。右手の壁面上部にもトップライトが設けられている。



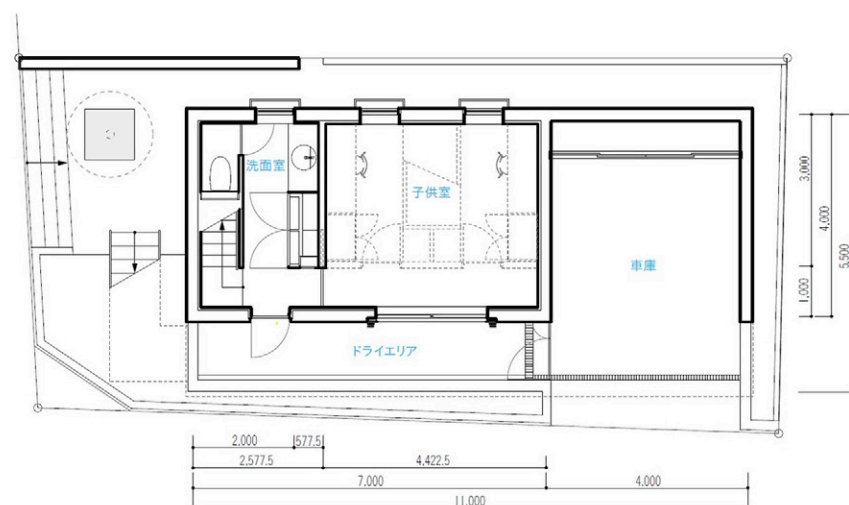
必要なものをかたちにする



2階平面図



1階平面図 縮尺1:150



地階平面図

都立大学駅に近い高台の住宅地に建つ、ふたりの小さい子供と夫婦のための家である。敷地は緩い傾斜のある道路の交差点にあり、妻側は比較的交通量の多いバス通りに面している。地盤面は道路から半階ほど高いところにあり、建物規模と高度斜線から、計画当初より半地下+地上2階の構成で検討が進められた。

案をつくる中、子供部屋の位置がなかなか決まらなかった。リビングを最上階に置いた時が最もヴォリュームのある豊かな空間が得られることは了解して頂けたのだが、子供部屋を目の届くリビングと隣接した階に配置したいという気持ちも強かった。そうすると、一方では主寝室とリビングが離れてしまうことになる。終の住処とするならばこれらを隣接させるべきで、大変迷うところであったが、夫婦主体の家にするという結論に至り、最終案となった。

でき上がってみると素焼きの壺のようなシルエットの建物になった。妻側の垂鉛メッキでつくられた大きな出窓や玄関が外壁から飛び出している。長手は、妻側の出っ張った表現とは反対に、壁が穿たれたバルコニーがある。これらは、建物の外周につくられた中間的な領域であり、内部に光と風を導き、生き生きとした空間をつくり上げるための仕掛けである。

たとえばいちばん上の壺の口にあたる場所はトップライトで、リビング上部のスリットとの間に暑くなった空気の溜まるチャンバーを設け排気するようにした。その結果、温度差でドラフトが起き、上に向かったいい風の流れをつくってくれている。

正面の大きな出窓は脇に縦長の通風窓を開け、キッチン横にはルーバー窓も設け、テラスの大きな窓からそれぞれ対角上に風が通るよう工夫した。今年の夏は酷暑の数日を除き、冷房なしで過ごすことができたそうである。

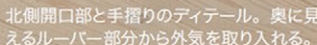
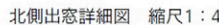
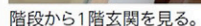
幼稚園に通うお子さんはこの出窓から通りを覗くのが大好きだそう。

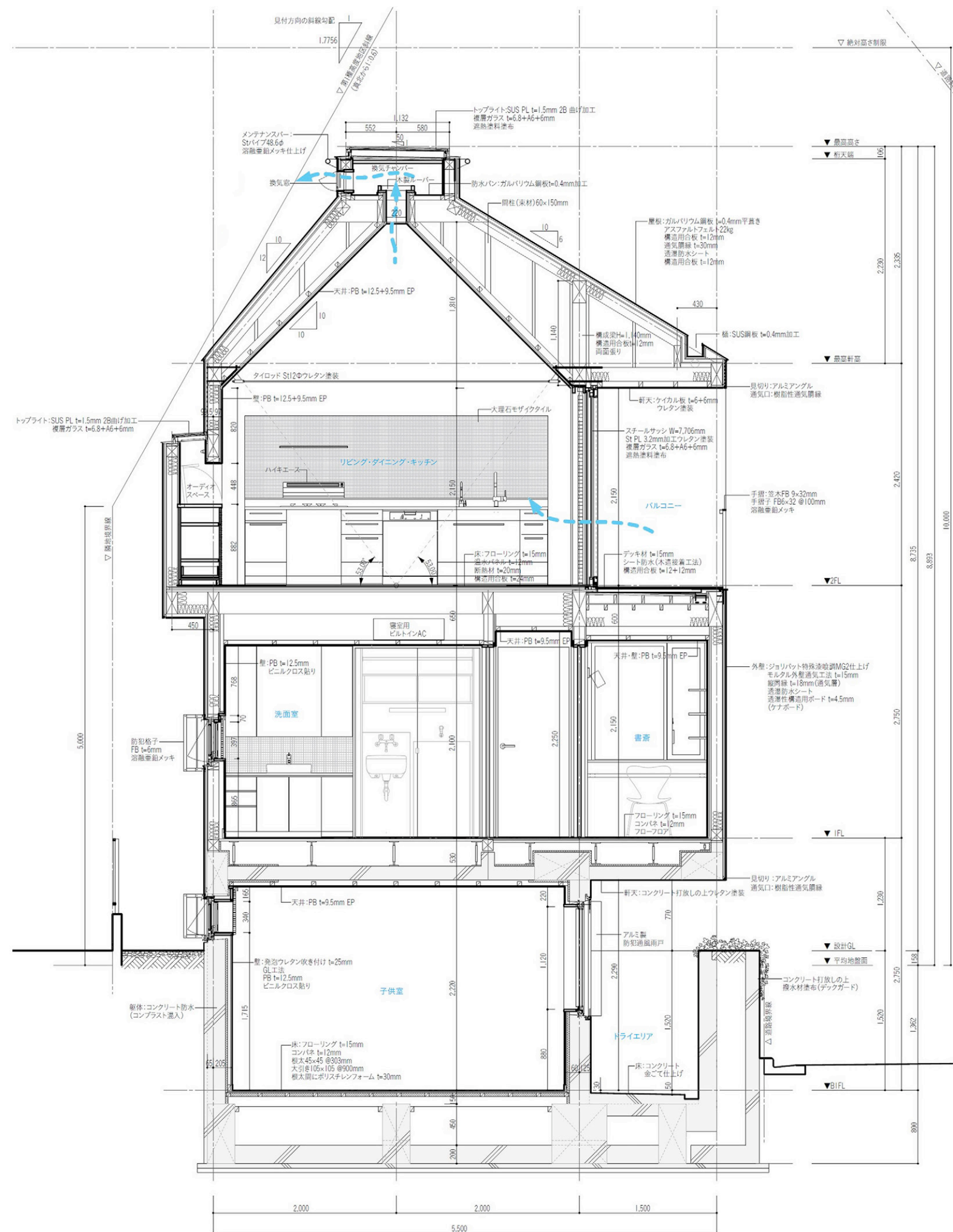
そしてこの窓はバス通りへ内部の気配を感じさせ、町とのコミュニケーションの仕掛けともなっている。建主はクリスマスにツリーを飾ることを楽しみにされている。

この家は設計の過程で必要なことを見つけ、そこにかたちを与え、そのまま具体化させていった結果である。最後に現れたかたちは、少しユーモラスであった。(矢板久明 矢板直子)



キッチン側を見る。
西側の窓を開けると、北側から入る風の流れが感じられる。





断面詳細図 縮尺1:50

八雲の家

所在地／東京都目黒区

主要用途／専用住宅

家族構成／夫婦＋子供2人

設計

矢板建築設計研究所

担当／矢板久明 矢板直子 渡辺朋恵

放生隆嗣

構造 構造設計社 担当／杉浦克治

設備 島津設計 担当／島津充宏

コーディネート ザ・ハウス

施工

日祥工業 担当／渡井孝浩 加藤陽介

大工 ウッド工房・和 担当／藤ノ木一

家具・建具 千葉木工製作所 担当／千葉信彦

設備 望月設備 担当／望月彰雄

電気 栄晃商事 担当／吉田実

金物 岡村金物 担当／山瀬修

川越工業 担当／川越康延

スチールサッシ 日新建材 担当／網寄勝二

塗装 橋本塗装店 塗装下地 エイコー建築

家具塗装 アーク塗装 担当／畑中政敏

コンクリート補修 赤坂左官 担当／赤坂義語

外壁左官 ソーテック 担当／松田雅弘

ブラインド JBS

構造・構法

主体構造・構法 木造在来工法 一部鉄筋コンクリート造

基礎 直接基礎

規模

階数 地下1階 地上2階

軒高 6,558mm 最高の高さ 8,893mm

敷地面積 106.32m²

建築面積 63.61m²

(建築率59.82% 許容60%)

延床面積 105.36m²

(容積率99.09% 許容100%)

地階 59.19m²

1階 53.00m² 2階 52.36m²

工程

設計期間 2009年1月～2010年3月

工事期間 2010年7月～2011年7月

敷地条件

地域地区 第一種低層住居専用地域

準防火地域 第一種高度地区

道路幅員 北11.1m 西5.95m

駐車台数 1台

外部仕上げ

屋根／ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 平葺き

外壁／透湿性構造用ボードの上モルタル外壁

通気工法(富士川建材工業) アイカジョリ

パッド 特殊しっくい調 MG2仕上げ 防汚

塗料塗布(ダートレベント)

開口部／特注スチールサッシ 一部アルミサッシ(三協立山アルミ)

遮熱塗料 アットシールドクリア(フォーユー)

出窓部／透湿性構造用ボードの上PB

t=12.5mm St PLt=2.3mm加工溶融亜鉛

メツ キ仕上げ

外構／アプローチ：コンクリート金こて仕上げ

外構壁／コンクリート打放し 撥水材塗布(デックガード)

内部仕上げ

リビング・ダイニング・キッチン

床／スギフローリング t=15mm(中部フローリング)

オスモワンコートオンリー拭き取り

壁／PB t=12.5+9.5mm AEP キッチン前面

大理石モザイクタイル貼り(ADVAN)

天井／PB t=12.5+9.5mm AEP

家具／ソファ arflex UNO DI NOI ダイニング

チェア：Yチェア(カール・ハンセン & サン

ジャパン) ダイニングテーブル：特注(千葉

木工製作)

厨房機器／クッチーナ マットペイント仕上げ

換気扇(シェード)／ハイキエース

照明／ヤマギワ ERCO TOTO

シンク水栓金物／GROHE Tform

玄関

床／コンクリート金こて仕上げ 樹脂ワックス塗り

壁／PB t=12.5mm AEP

天井／PB t=9.5mm AEP

寝室

床／スギフローリング t=15mm(中部フローリング)

オスモワンコートオンリー拭き取り

壁／PB t=12.5mm AEP

天井／PB t=9.5mm AEP

照明／ヤマギワ

浴室

ハーフユニットバス(TOTO)

壁／モルタル下地の上タイル貼り

天井／珪酸カルシウム板 t=6mm2枚張り UP

洗面室・トイレ

床／コンパネ t=12mm ビニルシート貼り

壁／PB t=12.5mm ビニルクロス貼り

天井／PB t=9.5mm ビニルクロス貼り

洗面カウンター／パーチ積層合板の上 UP

洗面用水栓金物／VOLA(CERA) Tform

暖房方式／電気ヒーター(PS)

便器／TOTO

設備システム

空調 冷暖房方式／空冷ヒートポンプ式

給湯 温水暖房方式／エコウィルガス給湯器

暖房 ガス温水式床暖房TES+ガス温水ラ

ジエーター

換気方式／自然換気 第三種換気方式

給排水 給水方式／上水道直結

排水方式／下水道接続

撮影／新建築社写真部

*写真提供：矢板建築設計研究所

Making points

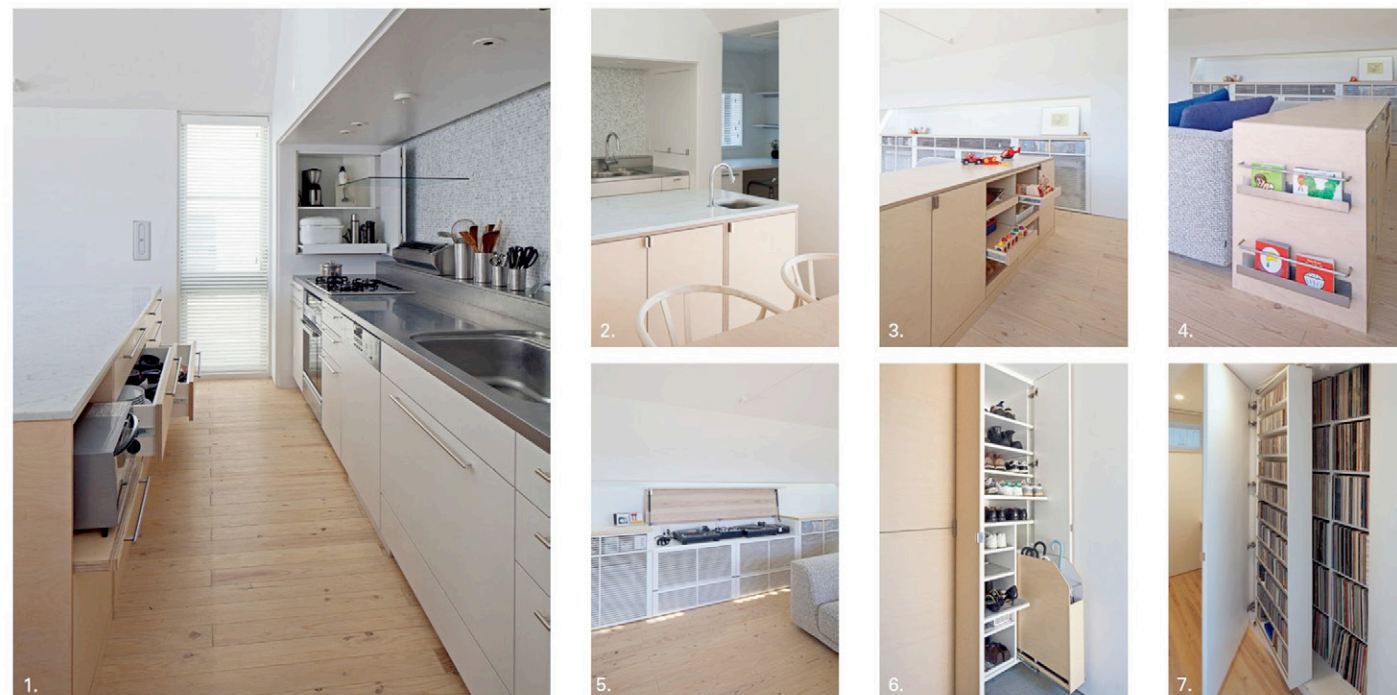
より細かい設計が生活を支える

建主夫妻は、現場も佳境に入る頃には、頭の中では完全にこの家に住みながら生活のシミュレーションを繰り返しておられた。なかでも重視されたことはご主人のオーディオスペースのあり方と数千枚におよぶレコード、CDの収納方法、必要な時以外は電化製品が隠れるよう設えたキッチンとその使い勝手、そして子供のための収納家具のデザインであった。たとえば子供用の家具は、集中力を養う教育の一環で、数少ないおもちゃ

や絵本を自分で選んで遊ぶ環境としたいという要望を具体化していったものである。

設計を通してわれわれが心がけたことは、生活のシーンが明瞭な建主のために、使ってよし、見てよしの設えをできるだけ実現し、最後にはこれら実用的なものを概念化し、建築全体に統合させることであった。

(矢板久明+矢板直子)



1. 炊飯器はレンジ横に格納され、必要な時に扉を開けトレーを引出して使う。食器類もすべて引出しに収納される。／2. キッチン脇に、冷蔵庫、食品庫、作業机などのあるユーティリティーがある。／3. 必要なおもちゃだけ、オープンな引出しトレーに並べられる。／4. 読んでもいい絵本は、家具の横に取りつけられた本棚に並べられる。／5. オーディオ機器は天板を開けて使う。下のガラリ内部は、アンプ、CD収納、空調機が納められている。／6. 奥行の深い靴入れ、引出しトレーに前後2列に収納、傘立ても収納されている。／7. 扉を開けると、奥にLP、手前の開閉式収納にはCDが収納されている。／117頁写真*